広報蕨　八七七号　令和五年九月一日発行　毎月一回発行　印刷・㈱秀飯舎

輝いてます

# ひと

第65回小学生全国空手道選手権大会 出場

## 宮地 雄介（みやち ゆうすけ）さん

得意形の「慈恩」を披露する宮地さん

### 拳にこめる勝利への思い

あどけない笑顔から一転、バシッという道着の音が鳴り響き、一瞬で張りつめた空気をまとう西小学校4年生の宮地雄介さん（9歳・錦町3丁目）。先月、埼玉県の代表選手として、小学生全国空手道選手権大会に出場しました。

幼稚園の頃から小学生のドッジボールチームに参加している宮地さん。自然と抜群の身体能力が身についていました。小学1年生から空手を始めると、その才能が開花します。3年生から練習を始めた組手では、わずか半年で埼玉県の代表選手になるほど。ところが、とんとん拍子に出場した昨年の全国大会では、世界大会にもつながる大舞台の雰囲気にのまれてしまい、初戦敗退。「何がなんだか分からないうちに負けてしまった」。その悔しさから、1年間さまざまな大会に出場して、経験を積んできました。そして今年、今度は形（かた）と組手の両部門で全国への切符を手にします。

リベンジに燃える2度目の全国大会。努力が実を結んだのは形の部でした。課題の形を対戦相手と同時に披露し、5人の審判が判定する形の試合。最初こそ動きに硬さがありましたが、「このままでは終われない」と奮起し、持ち直します。メリハリのある演武に、審判全員が宮地さんの旗をあげ、全国大会初勝利を飾りました。勢いづいた宮地さんは、堂々とした演武で勝利を重ね、ベスト16がかかった4回戦を迎えます。その日一番の会心の演武を披露しますが、相手も全国から集まった猛者。一歩届かず、全国の壁の厚さを痛感させられました。

「夢は世界大会です」。演舞を終えてキラキラした目で語るその顔は、すっかり9歳の少年に戻っていました。ひたむきに振るその拳はいつか全国の壁を打ち破り、世界へと突き進んでいくことでしょう。

---

今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蕨にあり

—No.88—

本図は暁斎の娘で日本画家の河鍋暁翠（きょうすい）（1868～1935）が、大正5年（1916）に父・暁斎の下絵を基に描いた作品です。

暁斎は下絵に猫を描いていましたが、暁翠はその猫を犬の狆（ちん）に描き替えています。これは寛永（かんえい）時代（1624～1644）頃に狆が愛玩動物として飼育されたことを暁翠が知っていたためと考えられます。当時、遊女がよく結ったとされる兵庫髷（ひょうごまげ）や小袖（こそで）の文様の緻密さに、暁翠の描写力の高さがうかがえます。

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁翠筆「寛永時代美人図」軸装

詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

**河鍋暁斎記念美術館　開催中**

企画展「生誕155年　河鍋暁翠展」
同時開催　特別展「『狂斎百図』の世界」

開　館＝午前10時～午後4時　ところ＝南町4-36-4
休　館＝火・木曜日、毎月26日～末日
入館料＝一般600円　小・中学生300円
高校生・大学生500円
65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳　細＝同館（☎441・9780）

yosai Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勧業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

河鍋 暁斎（かわなべ きょうさい）
天保2年（1831）
～明治22年（1889）

広報紙に載っている写真を希望者に差し上げます（一部を除く）　秘書広報課広報広聴係までご連絡ください